

全国都市監査委員会総会での知事講演

～とっとり新時代を拓く～

H22. 8. 27

とりぎん文化会館

皆様、こんにちは。

本日は、全国の都市の監査委員の皆さん、また事務局の皆さんにこのように鳥取のほうにお越しをいただきましたこと、心から感謝を申し上げ、歓迎を申し上げたいと思います。高橋会長様はじめ全国の皆様、また今回事務局を務めていただきました湯口委員長をはじめ、鳥取市の監査委員の事務局、委員の皆様、本当にお疲れさまでした。敬意を表したいと思います。

今、司会のほうからお話がありましたけれども、実はきょう、後でまたお話しをいたしますが、関西広域連合という都道府県で初めて広域連合をつくろうかという、こういう構想がございまして、その知事の集まりを急きょ招集されたものですから、これから大阪へ走らなければならないと。11時半に出ても、まだ遅刻するというようなことでございまして、そういうわけで若干失礼をいたしますことをおわびを申し上げたいと思います。

ただ、内容のほうはそのままにしてありますので、ダイジェスト版で聞いていただけるというふうにご認識をいただければと思います。

きょうは、全国の監査委員の皆様、本当に日ごろはお疲れさまでございます。正直申し上げます、これから住民参画の自治体をつくっていく上で、監査委員、監査の役割というのは非常に大きなものがあると思っています。鳥取県もその先頭に立ってやろうということで、全国的にも非常に熱心に監査の仕事をするという伝統が、ここ数年定着してまいりました。

きょうは、監査の話は既に総務省の人の話だとか、あるいは行財政改革など、関西学院大学の林先生のお話も聞いていただいたと思いますので、むしろ鳥取の実践例だとか、それから今、県政として取り組んでいることなどをお話し申し上げたいというふうに思います。

「とっとり新時代を拓く」というふうに書かせていただいておりますが、これ実は、鳥取砂丘のイルミネーションでございます。年末はクリスマスシーズンになりますと、こういうようにイルミネーションを輝かせることになるわけであります。

それぞれの地域にすばらしいものがあるわけですが、役所の中のシステムをまずは変えていかなきゃならない。役所が役所でないようにコストパフォーマンスを上げていかなければいけない。そのことは重要だと思います。

ただ、それとあわせて、役所の中の改革と、それが住民の皆さんの福利厚生だとか、あるいは活力だとか、そうしたものに還元をされていかなきゃいけないと思います。そういう意味で、従来の改革派自治体は、まだ一步手前のところにいたと思います。むしろ、そうした庁内の改革をして、コストパフォーマンスを上げて、住民の参画を上げ、透明度を

上げることによって、開かれた県政、市政にしていかなきゃならない。その果実を住民の皆様にご覧にすることができるよう、県政自体、市政自体も転換をして、いろいろな活動に積極的に余剰財源だとかをつぎ込んでいかなきゃならないと思います。これが鳥取としては今、次世代改革と呼んでいるんですが、次の世代の改革だと。その次世代改革によって、「とっとり新時代を拓く」というのをテーマにさせていただいているわけでありまして。

今回、新しい選挙戦が始まりまして、民主党の代表選挙が始まりました。小沢前幹事長が打って出ることになりまして、菅総理と争うということの構図が決まったわけでありまして。正直申し上げて、コップの中の戦争はもうたくさんだという国民も多いと思います。私も同感であります。せつかく代表選を行うというのであれば、これからの国のあり方を占うに足りる、正々堂々たるすばらしい論争を展開していただかなければならないだろうというふうに思います。

民主党の政権が発足しまして、私ども鳥取県では、民主党が掲げた地域主権という言葉があります。これは賛否両論ありますが、地域からこの国を変えていこう、そういう発想に基づくものでありまして、その地域主権の改革のあり方を研究するチームをつくりました。神野直彦先生にそのスーパーバイザーを務めていただきまして、有識者の方にも入っていただき、改革案の取りまとめを地域からやっというふうなことでやりました。

ここに書いてありますように、今までの県、それから国、市町村、あたかもひしもちのように同じようなことを、それもしかもしくつき合っというふうなことをやっていたと。大変なむだがあったわけですね。むしろ、国はこの部分に限ってやります、市町村はこの部分をやります、県はこの部分に限ってやりますというふうな、それぞれの役割分担を明確にすれば、このように市町村と県と国とで住民の皆様のためにロケットを飛ばすことができるんじゃないか。3段重ねのこういうひしもちのスタイルではむだがある。それぞれの役割分担を丁寧に考えていって、お互いにすみ分けをして、そして一番高いところに最高のコストパフォーマンスを連れていくことができるんじゃないか。「イトカワ」のように到達することができるんじゃないかという、そういうような構想であります。そのためにも住民の参画が重要でありまして、新たな公共という言葉がはやり始めましたけれども、NPOだとか、地縁団体だとか、そうしたものの参画を求めようじゃないか。これが地方の権限・財源の保障とも相まって、初めて住民参画による地域主権改革ができるのではないかとこの図を描いたわけでありまして。

そのために一つ、自治制度の提案もさせていただいたんですが、今、広域連合、私もそのために大阪のほうに走るようになっておりますけれども、広域連合だと、議会をつくったり、いろいろと大変に手間がかかるということがあります。当然ながら、そのための費用もかかります。広域連合で議員さんを指名すれば、その報酬の問題が当然発生をしますとか、そういうことになります。それはそれでデモクラシーでありますから、よいのかもしれませんが、もっと簡便な形で今の協議会という自治法上の組織がありますが、その協議会に法人格を与えるようなイメージで、もっと簡素な共同統治をする、そういう組

織をつくってもいいんじゃないかということです。これは県と市町村との間でもできるんじゃないかというふうに思っております。そうした自治法上、まだ制度がないところを提案させていただきました。

鳥取発で地域主権社会を組んでいこうということを考えているわけですが、今、国のほうではそのための出先機関の整理が重要な課題になっています。ハローワークなんかも県のほうに移してもいいんじゃないかと私たちは主張をしているわけですが。事実、鳥取県は全国で唯一、ハローワークを運営しているんです。県内の2カ所、県営のハローワークをつくっております。それは国のほうの労働のネットワークともつなぎまして、求人求職情報も見られるし、それを活用して国の制度も一部導入しながらやっているわけです。だから、できないわけじゃないんですね。むしろ、これを妨げているのは固定観念だとか、あるいは国の各省庁の都合のように思えるところが多いです。

それから、これがさっき申し上げたふるさとハローワークであります。こういうふうには日常、就職のあっせんをすることもしています。ここにございますが、看板も掲げて、「鳥取県ふるさとハローワーク」と書いてありますが、ハローワークは国の名前でございますので、これを一部借用させていただいて、わかりやすくふるさととつけて、県営でいいんじゃないかということでやったわけです。

それから、地域発の地域主権改革をやるということ、県が非常に推し進めておりますのは、透明性の高い県政運営をしようということでもあります。予算編成過程がすべて内部作業で見えない。それから、2月ごろまでに課長査定だとか、部長査定だとか、知事査定を経まして、それで初めて発表するという、こういうような仕組みになっているわけです。これを改めていこうということで、予算編成過程のそれぞれの段階で情報をホームページ上に公開することにいたしております。さらに、新年度の当初予算編成から導入しようとして今議論をしておりますけれども、こうやって課長査定、部長査定、知事査定と、これは市もそうでありますけれども、これは多段階で査定をするというのが全国の流儀なんですね。これは国もそうです。国も担当が査定して、主計官が査定して、局長が査定して、そして大臣が査定するみたいにして、順番に復活をしていくということになります。これは同じことを何度も繰り返すわけでありまして、これもむだじゃないかと。ここも整理をして、一発で査定が決まるようなシステムを鳥取から今つくろうとしておりまして、当初予算から導入をしようとしています。この予算編成過程が透明性の高いということで、オンブズマンも非常に今評価をしてくださっています。近々、その状況も明らかにされると思います。

例えば、これがホームページに出ているわけですね。これは財政課長の段階の課長査定、残念ながら、特殊車両改修工事はゼロ、つけませんという話になっています。それに説明責任を果たさなきゃいけないので、県民の皆様が見えるように、査定の理由も書くわけですね。これなんか非常に正直に書いてあります。現時点では風雨はしのいでいますので、もう少しの間様子を見ましようとして書いてありまして、これでとりあえずは別の場所を考え

てくださいと、こんな査定になっているわけでありますが、こういうのがホームページで見られます。皆さんもお帰りになってごらんいただくと、過去の査定状況もごらんいただければと思います。

それから、鳥取県は透明度をアップするというをやっていたさなかに問題になりましたのは、全国学力学習状況調査、この情報公開です。我々としては、これは公開すべきだと考えまして、そしていろいろと議論は県内でもすったもんだあったわけでありませけれども、条例を改正して、そして児童または生徒の数が10人以下の学級に係るものについては非開示とするけれども、それ以外の県が持っている情報は公開しますよということにいたしました。事実、情報公開請求が来ております。ただ、現時点で何らよくいろんな団体が言っていたような、子供たちの人権が侵されるんじゃないかとか、学校の現場が荒れるんじゃないかとか、そうした弊害の報告は一切ないですね。ですから、その辺はプロパガンダだと思います。やはり公開をして、そして住民の皆さん、保護者の皆さんにも教育にも参加していただくチャンスを与えるほうが、よほど値打ちがあるのではないかと思います。そういう考え方で、単に公開するだけでなく、別枠の1億円規模の教育予算の増額もしまして、例えばカリキュラムの改善をするとか、それから教材をつくるとか、いろんなことをやりました。ことしも学力テストの抽出調査が行われて、文科省のほうから発表されましたけれども、鳥取県はすべての科目におきまして、全国平均を上回る状況になっております。

それから、これは林先生のほうから多分いろんなお話があったと思います。大きな財政の問題を申し上げれば、税制改正のことが大きな課題になると思います。付加価値の税率、これが今のこのグラフでございませけれども、日本は付加価値税がGDPに占める割合はカナダと並んで非常に低い状況にあります。他の国はこうやって高いわけですね。そして国税収入のほうを見ますと、日本はそれなりに世界と同じぐらい税収を伸ばしていて、欧州並みの水準までやってきています。ただ、地方のほうを見ますと、地方のほうは相変わらず低いということございまして、やはり地方税での付加価値税のあり方を考えるべきだろうということがこれからの議論だと思います。今度、代表選が行われて、菅総理になるか、小沢総理になるかということで、この辺も大分景色が変わってくるかもしれません。

このグラフでいきますと、カナダは一番低いように見えていますが、バンクーバーのオリンピックが開かれたブリティッシュコロンビア州とか、それから大都市のトロントがあるオンタリオ州だとか、そうしたところでは付加価値税を導入しましたので、これが今度この後でぐんと上がっていると思います。恐らく日本は、世界的に見ても圧倒的に地方の付加価値税が弱い。ですから、消費税論議が起こるときには社会保障負担、これは地方も同程度国と同じように抱えていますから、年金の議論に引っ張られることなく、この辺もメスを入れる必要があるんじゃないかという議論でございませ。

また、これは各税目見ておりますけれども、地方消費税は異常なほどに安定性が高いです。ほかの税目とは全く違うという特質を持っています。それから、これはその状況でござ

ざいますが、こういうように消費税の議論もこれから起こってくると思います。

県と市町村が協働で仕事をしてもいいじゃないかと、発想の転換を今図りつつあります。これは一つの例であります。この4月から鳥取県では、地方税の滞納整理機構というのをつくりました。これでは県と市町村、これまで別々に滞納整理にかかっていたわけがありますけれども、同じようなものを対象にしていまして、手間もかかっています。これを県と市町村で相互に同じ一つの身分を共有することによりまして、協働して滞納整理をしよう。これで県と市町村でかかる、こういう滞納整理の手間を半減させよう。これお金にも響きます。徴収率も実は上がるんですね。特に町村ぐらに行きますと、滞納整理、実は難しいです。みんな顔知っていますから。しかし、県の職員がその町の身分を持って滞納整理をやることになりまして、そこは冷静に行うことができまして、徴収率が向上します。そういう意味でも効果があるということでもあります。こういうように県と市町村の垣根を乗り越えていっていいんじゃないかと、そういう取り組みを始めました。

また、これもこの6月議会で承認をもらいまして、鳥取県の南西部のほう、この間豪雨で災害がありました。庄原市との境を接するあたりであります。この日野郡では県と町で一緒になりまして、例えば、障害者雇用とか母子保健だとか、そうした行政分野を協働で処理する協議会をつくりました。さらに道路行政なんか一緒にできると思います。道路の管理なんか、県道だ、国道だ、市町村道だといって分ける必要はないだろうと思います。その辺にも広げていこうという今協議をしているところです。

鳥取県は実は、ボランティアの参加率が全国1位だというのが国のデータであります。そういうものも生かしまして、鳥取力を高めよう。地域での住民の力、それから地域の力を高めるために22億円余りの基金を活用しまして、補助金も出すということも始めました。その鳥取力の一つの例として、例えば引きこもりがちな高齢者や障害者の方に出てきてもらうようなことをやりましょうとか、それから、隼（はやぶさ）というスズキのオートバイがありますが、こういう格好いいオートバイに乗って全国から来てくださいという祭りをやるとか、住民主導でいろんな運動が今始まりつつあります。

それから、森づくりにも企業の力をかりるようになっていまして、私が就任するときは3社しかなかったんですが、この3年間で14社まで協働の森づくりを広げることになりました。さらに、里も中山間地域など田畑が荒廃します。そういうところに企業の力を導入して、一緒になって特産品づくりだとか、企業の従業員の方に耕作に当たっていただくかやってもいいんじゃないかと。共生の里と呼んでおりますが、全国的にも珍しいこうした事業も県内で始めたところでもあります。

住民と一緒に地域づくりをするに当たりまして、冒頭ありました砂丘、これは我々の誇りであります。この鳥取砂丘で問題になりましたのは、別にこれ、高橋会長に文句を言っているわけではありませんが、大阪と書いた落書きが砂丘のど真ん中にあります。これがご記憶にあると思いますが、テレビだとか新聞で大分問題になりました。それでこれを一掃しようではないかと。また、砂丘も放っておくと、このように草が生えます。何と

なれば、雨も降れば雪も降るところでありますので、草が生える。これを一生懸命、今ボランティアで平成の初めごろから抜くようになったんですね。それで砂丘の景観を取り戻そうという運動をやっています。この運動はニューヨークタイムズの記者におもしろがられまして、アメリカのニューヨークタイムズで大きな記事になりました。「緑と闘うボランティアたち」というような、そういうタイトルが付きまして、世界中では砂漠があると木を植える、緑化をするんだけれども、日本は草を抜くということでございまして、世界に逆行をしているということで記事になったんですが、こういう問題に対して条例をつかっていこうじゃないかと。砂丘に落書きをしたりすると罰金をかけましようとか、中にはサンドウェッジを持ってきまして、サンドの練習をする人もいます。こんなのは危険なので、それも禁止しようとか、そういう条例をつくることにいたしました。日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例として可決をされたわけであります。正直、議会では大分反対もありました。それはお客さんとして来る人たちに罰金をかけるなんてとんでもないという話であります。ただ、頼んでもいないんですが、ヤフーというインターネットが勝手にアンケートをやってくれまして、鳥取の砂丘条例があるけれども、賛成か反対かと全国の人に調査をしてくださったんですね。あたかも県議会の真っ最中でありまして、それがアップロードをされますと、びっくりしましたが、半数以上の方が賛成をするということで、6割、7割の方が賛成だったんですね。その後、議会も急速にトーンが変わりまして、賛成をしてくれるということになりました。

この砂丘、年間1万人ぐらいの人が草取りとか、こういうごみ集めに奔走していただいています。西のほうに行きますと大山という山がありまして、これはトイレの汚泥を持っておりるという、そういうボランティアであります。これもトイレの汚泥なんて汚いものを、だれが担いでおりるだいやという話があったんですが、募集してみたら、450人集まりました。その用意したペットボトルふうの入れ物も足りないぐらいに集まりました。このようなことを鳥取県ではいろいろと始めております。

さらに、住民と一緒に校庭や園庭を芝生化しようという鳥取方式、これも全国に広がりを見せ始めました。中山間集落見守り活動、これも企業と協働して始めています。先ほど申しました広域連携も、例えば近畿圏との連携ということでやっているわけでありまして、皆さんもこの地図を見て驚かれるかもしれませんが、鳥取も関西の知事会の中に入りまして、徳島とか福井とか三重とかもあるんですが、高速道路もできた機会に入らせていただきました。この関係で新しい広域連合をつくろうと言っているわけです。例えば救急医療連携、ドクターヘリを一緒にやろう、広域観光や文化振興を一緒にやろうと、このようなことを今しようという時代になってきました。きょう、知事同士で話し合っ、我々の方針を固めていこうとしております。

また、海外との連携も、これが鳥取県の次世代改革のテーマであります。こういうように対岸のロシアとか、それから韓国の東海岸と結ぶ唯一の航路が今就航するようになりました。さらにソウルと航空路があったり、上海だとか釜山だとかと船が行き来をいたして

いるわけでありませう。

その大交流時代を目指して、観光客もだんだんとふえてきました。ロシアにはビジネスサポートセンターをつくったりしました。この下にありますけれども、先般はパブリカを韓国から輸入をするということを始めました。パブリカを輸入しましたら、ついでにミスコリアがこうやって56人も乗っかってきまして、ミスコリアは輸入していません。その日のうちに帰られましたけれども。それから大交流時代を目指して、いろんな地域交流をやったり、ダイヤモンド・クインテット構想、それぞれの地域で結びついていこうという、今サミットも始めております。

さらに、山陰海岸をジオパークに指定しようということもしてござりまして、これも10月に結論が出るようになっております。京都府や兵庫県と一緒にした取り組みであります。漫画王国としてもいろいろ見どころがありますので、ぜひ皆様にもお帰りに寄っていただければと思います。

おかげさまで「ゲゲゲの女房」が大ヒットしてござりまして、この夏に入ってから、あの「龍馬伝」を抜きまして、福山雅治に勝ったというところまでやってまいりました。さらに、懸案でありました「笑点」はずっと抜いてござりまして、「笑点」と福山雅治を抜けば、視聴率トップということになります。全番組のトップということの効果もあって、今、200万人、水木しげるロードにやってくるようになりました。そのほかにもいろいろこうした漫画の聖地があるものでありますから、国際漫画サミットを平成24年に向けて誘致をしようとしております。この秋にその正念場が迎えられるます。

また、韓国の韓流ドラマで、今、「アイリス」という番組がありますが、その後継ドラマを鳥取でロケをしようということで、今やっております。今、裏方、すったもんだやっております、私も、毎日とんでもない相談がいろいろ来るもので、びっくりするわけですが、例えば高い橋があるんですね。その高い橋を見ますと、スタッフが、この上から飛びおいてもいいかとか、何しろアクションドラマでありますので、こういう拳銃を持ち込んだらどうだろうかとか、とんでもないいろいろなことが起こるわけですが、このロケを今誘致しようとしております。こうやって観光振興を図ろうとしております。

また、環境先進県に向けて、自然エネルギーの導入量を飛躍的に伸ばしているところでありまして、今、青森の次に世帯当たりの住宅用、それから風力発電はトップとなっております。このたびは電気自動車を導入しようということにも乗り出してござりまして、新しい電気自動車工場の進出話が決まりました。J Tの工場が撤退をするという跡地を使おうということになりました。さらに森を活用してJ-VERというCO₂の吸収を行う、これも売り出すことになりまして、きのうからこの販売を始めています。今、大手の製パン業者などが興味を持っていただいております。

「食のみやこ鳥取県」というのも、我々のこれからの次世代改革のテーマだと思っております。特に最近話題になっておりますのは、右上にあります鳥取牛骨ラーメンというものでありまして、鶏がらでもない、豚骨でもない、牛の骨、牛骨でつくったラーメンという

のが、これ、結構おいしゅうございまして、鳥取県の中中部で広がっております。先般は銀座にも出店をしました。こういうようなB級グルメなどもだんだん出してきております。

農商工連携、これも各県もやっておられると思いますが、手がけておりまして、さらに農業と福祉が一緒になってもいいんじゃないかと。障害者の皆さんは働き場所を求めています。農業者は後継者を求めています。ですから、農と福を連携してみようじゃないかといって、ナシの袋かけというような作業とかを始めました。非常に評判がいいです。水産業との連携も始めました。干物づくりだとか、人が余り好んでやらないようなことを一生懸命障害者の方もやって、これはちゃんとその辺の売店でも売っております。収益が上がるものですから、障害者の方も最低賃金のようなものが受けられるということになりました、非常に喜んでいるということですね。

さらに、ハイパーブレインというベンチャー会社を立ち上げて、ラベンダーの香りとかで痴呆症が予防されるという、ちょっと聞くと、信じられないという顔をされるかもしれませんが、これは鳥取大学の医学部が研究をしております、これを商品化するというような作業をしております。さらに、バイオフィロンティア事業という鳥取の弱い分野でありましたけれども、バイテク産業にも参入をしよう。全国でなかったようではありますが、県が初めて国立大学の中に県の施設を建てるということにいたしまして、こういう染色体工学のものもできたわけであります。

「国家の実力は地方に存する」と徳富蘆花が言っているわけでありまして。文豪ゲーテも言っているわけでありまして、「めいめい自分の家の前を掃け。そうすれば、町はどの区も清潔だ。めいめい自分の役割を果たせ。そうすれば、市政はぶじだ」。こういうように言っているんですね。この言葉はゲーテが死の床にあった、そのときに書かれた、日付が残ってしまっていてわかるわけです。みずからの生涯と引きかえに後世に残した言葉、これをぜひ監査委員の皆様にも実践をしていただいて、そしてそれぞれの都市に繁栄が訪れますよう、ぜひともお導きを賜りたいと思います。

きょうこうして、30分、ちょっと短くなりましたけれども、手短かに鳥取の一端を話させていただきました。この鳥取市がきょう主催であります。そして、鳥取県もそうでありませけれども、非常に財政に困窮をいたしております。皆様もこうして週末終わられてということになります、あした、あさってと休みであります。皆様のご家族は、必ずしも皆様の帰りを待っているとは限りません。ぜひ連泊をしていただきまして、鳥取市内にも温泉地が数多くございます。浜村温泉とか鹿野温泉、それから鳥取の駅前も温泉でありますし、またこの近在には岩井温泉だとか、また県内三朝温泉、それから皆生温泉とかいうようなこともございまして、ぜひめぐり歩いていただければありがたいと思います。

そして、皆様のお帰りだけを家族が待っているわけではなくて、お土産を待っているわけございまして、この会場の外には、親切にもたくさんブースがあります。おいしいものの数には限りがありますので、お早目にお買い求めいただきたいと思う次第であります。

皆様のご来臨、心から歓迎を申し上げ、感謝を申し上げ、それからそれぞれの市政のご発展をお祈り申し上げまして、私のほうからのメッセージとさせていただきます。どうもありがとうございました。